

今日のキーワード 『健康寿命』と「平均寿命」の重要な差

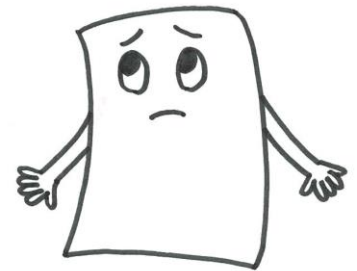
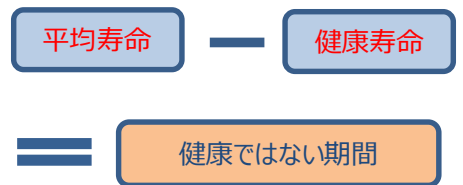
政府は6月に新たな成長戦略「未来投資戦略2017」を公表しました。この成長戦略では、あらゆるモノがネットにつながる「IoT」や人工知能（AI）の活用で快適な社会をつくる構想の実現を目指し、5つの戦略的分野に政策資源を集中投資する方針が示されました。その戦略的分野の1つが『健康寿命』を延ばすことです。政府が力を入れて取り組む、日本人の『健康寿命』はどうなっているのでしょうか？

ポイント1 『健康寿命』は男性71歳、女性74歳 「健康ではない期間」は男性9年、女性12年

- 厚生労働省によれば、『健康寿命』は「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されています。2013年の『健康寿命』は、男性が71.19歳、女性が74.21歳となっています。一方、2013年の「平均寿命」は男性が80.21歳、女性が86.61歳でした。
- この『健康寿命』と「平均寿命」の差は、日常生活に制限のある「健康ではない期間」を意味します。2013年における「健康ではない期間」は、男性が9.02年、女性が12.40年と計算されます。

ポイント2 国は『健康寿命』の延び後押し 「健康ではない期間」を縮める狙い

- 厚生労働省によれば、「平均寿命」の延びに伴って『健康寿命』も延びていますが、その差である「健康ではない期間」はあまり縮まっていません。2010年と2013年を比較すると、男性が0.11年、女性が0.28年短縮したにとどまっています。
- 政府は成長戦略の柱の1つとして、『健康寿命』の延伸を掲げました。『健康寿命』を延ばし、「健康ではない期間」を短縮することが出来れば、個人が長く生活の質を維持することが可能になると共に、医療費や介護費用が抑制され、社会保障費も軽減されるためです。



今後の展開 生活習慣の改善と共に早めに老後資金への備えを

- 昨今の健康ブームが示すように、老若男女を問わず健康への意識が高まっているなか、政府の後押しもあり、『健康寿命』は延びることが期待されます。一方、その後に控える「健康ではない期間」には医療費や介護費用がかさみ、経済的な負担が大きくなりますが、生命保険文化センターによれば、自助努力による老後資金への備えは十分とは言えないようです。1日でも『健康寿命』が延びるように、食事や運動をはじめ生活習慣の改善に努めると共に、老後資金づくりには1日でも早く取り組みたいものです。

ここも
チェック! 2017年8月8日 『分散』投資って何を『分散』するの？
2017年8月1日 『平均寿命』が最高更新、老後資金は大丈夫？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。